

◎ 産業と都市の発達

○ 農業の発達

南北朝時代

農業技術の進歩

- ・草や木を灰にして、() に用いる。
- ・稲(大唐米)の栽培
() に強く、収穫量が多い
- ・() がさらに広がる。
- ・茶・桑・漆・楮の栽培。
- ・綿の栽培。() から伝わった。

○ 都市と商工業

室町時代

各地に手工業を専門に行う人々があらわれる。
鍛冶・鋳物・紙すき・織物など

() ……人口20万人前後という大きな都市。

- ・中国の技術を取り入れた()、染色や刀づくりなど多くの手工業が発達。

地方では、

博多(福岡県)の絹織物
瀬戸(愛知県)の陶器
美濃(岐阜県)、播磨(兵庫県)の紙
甲斐(山梨県)の金
石見(島根県)の銀
出雲(島根県)、中国地方の鉄

特産物の生産
が盛んになる

- ・京都と地方を結ぶ瀬戸内海や日本海には船が行き交い、
港町には、() といわれる大商人がいた。
- ・陸上では、() とよばれる運送業者が年貢や商品を運んだ。

- ・地方で開かれる[] も回数が増え、6回も開かれる所もあった。

- ・商人や手工業者は、業種ごとに[]をつくった。
(油座・紙座・魚座など)
 - 公家や寺社に税を納める
 - 原料の仕入れや販売の独占の許可
 - [] の通行税の免除

- ・年貢や商品の売買は、中国の[] から輸入された[] が用いられた。

- ・京都や奈良では、[] と呼ばれる金貸し(質屋、寺院、酒屋など)が増え、武士や農民に高い利息で金を貸し、大きな富をたくわえた。

問 丸

鎌倉時代から港を中心に物資の運送及び商品の売買や倉庫業を営んだ業者のことで、大商人が多い。

座

今日でも有楽座とか劇場名に名を残している。手工業、商業、運送業、芸能に携わる者が職種ごとにつくった組織である。機内では寺社や貴族階級に献金し、販売の独占権を入手した。